

規模の小さな養鶏場の高病原性鳥インフルエンザ発生時における防疫対応の課題

湘南家畜保健衛生所

廣田 一郎 柴田 淑子
宮下 泰人 太田 和彦
福岡 静男

はじめに

家保は、これまで高病原性鳥インフルエンザ発生時の初動防疫計画作成のため、飼養規模に応じた防疫資材の調達や防疫作業人員を、管内の規模の大きな養鶏場を中心に進めてきたが、実際には、当所管内は規模の小さな養鶏場が多い。

今年度、管内に多い1万羽未満の規模の小さな養鶏場を対象として、実際の防疫作業手順についてシミュレーションしたところ、これまで行ってきた規模の大きな農場とは異なる防疫作業上の問題点が明確となった。そこで、これらの規模の小さな農場における防疫作業場の問題点について検討したので報告する。

管内の飼養状況

1 規模別戸数と羽数

管内の家きん飼養戸数は、85戸で、このうち100羽未満の小規模が68戸、80%と大半を占めている。

100羽以上の家きん飼養農場は、17戸、20.0%で、10万羽以上の大規模農場は、ない。

総飼養羽数は、66,094羽で、小規模で飼養されている羽数は、854羽、1.3%と僅かであり、中規模で飼養されている羽数は、65,240羽と98.7%を占めている。

(図1)

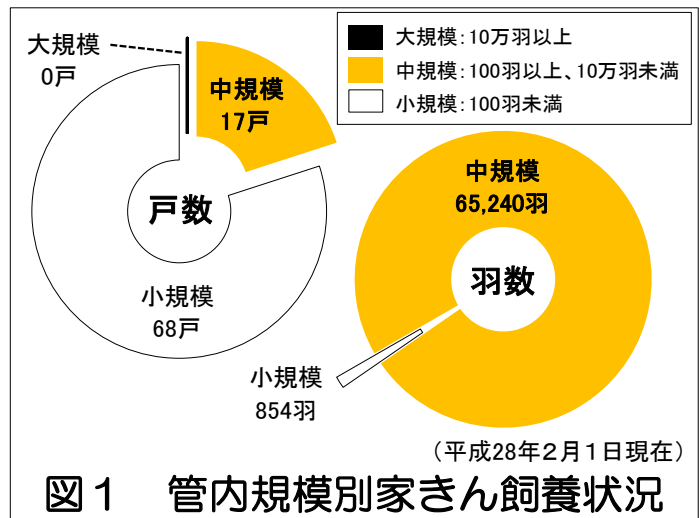
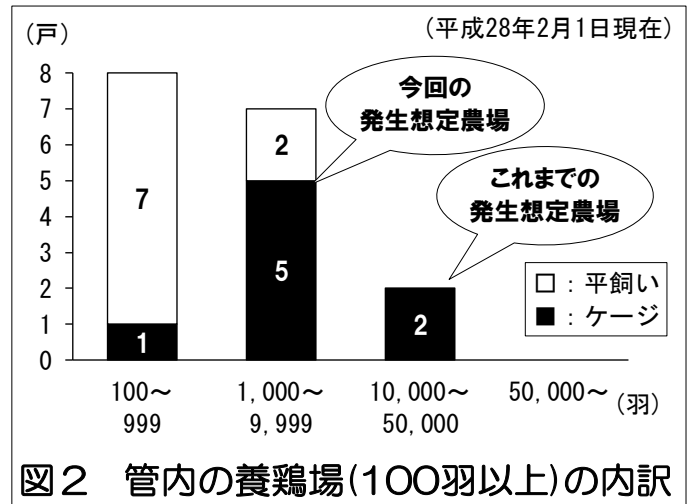


図1 管内規模別家きん飼養状況

2 養鶏場（100羽以上）の内訳

管内で、100羽以上の家きんを飼養している養鶏場17戸のうち、ケージ飼いは、8戸で47%、平飼いは、9戸で53%となっており、規模の小さな農場ほど平飼いの割合が高い状況である。

また、1万羽未満が15戸で88.2%と、大きな割合を占めている。（図2）



発生想定農場の概要と課題

今回、「管内において発生した場合に防疫作業が最も困難と思われる養鶏農場」を発生想定農場に設定し、農場で防疫作業を困難とする課題（以下、課題）等の整理と、課題の解決に向けた防疫対応の具体的な手順についてシミュレーションした。

これまでは、1万羽以上の規模の大きな農場を選定してきたが、今回は管内に多い1万羽未満の規模の小さな養鶏場の中から、市街地に位置し住宅と隣接するA農場と、山間地に位置するB農場、これら立地条件の異なる2農場を選定して、検討をおこなった。

1 A農場の概要と課題

A農場は、ケージ飼い、初生導入の採卵養鶏であり、飼養羽数は、4,800羽、うち雛が800羽である。鶏舎数は、5棟で、そのうちの1棟がウインドレス構造となっている。

飼養場所は、市街地の3ヶ所に分かれ、各鶏舎の配置は、図3のとおり発育ステージ毎に鶏を移動させながら飼養している。

保温の必要な幼雛期は、自宅敷地内のバッテリーブリーダーで管理し、中雛期は、340m離れた開放構造の育雛舎に移動し、ケージで飼養している。その後、自宅と道路を挟んだ向かい側の成鶏舎に移動させ、ここで採卵している。

図4は、幼雛及び成鶏を飼養している自宅付近の略図である。



道路を境に、西側の自宅敷地内で幼雛を飼養している。道路を隔てた東側では、開放鶏舎とウインドレス鶏舎で成鶏が飼養され、敷地内には糞処理施設や倉庫などがある。鶏舎周囲の敷地は狭く、かつ、道路を挟んでいることから、不連続な防疫作業エリアとなっている。また、農場前の道路の幅は、2.4mと狭く、車のすれ違いが出来ない。

成鶏舎から340m離れた育雛舎では、鶏舎の3方が敷地境界に近接しており、鶏舎の入口側に、若干のスペースがある。鶏舎のすぐ近くまで人家や集合住宅が迫っている。(図5)

A農場周囲の状況は、図6に示すとおり、学校や保育園、店舗といった人の集まる施設があり、小学校までは直線距離で80m程度である。

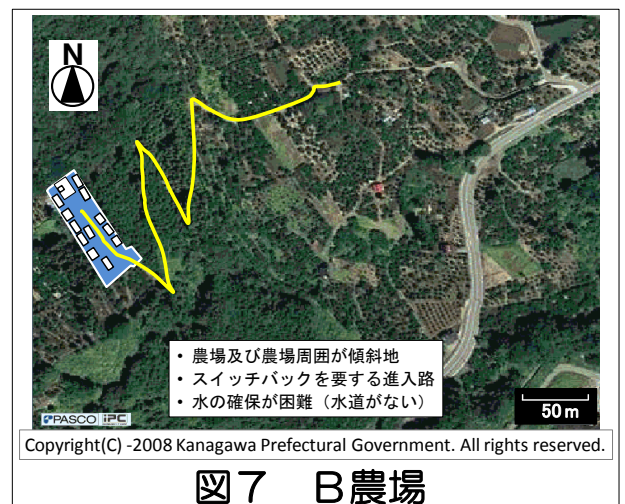
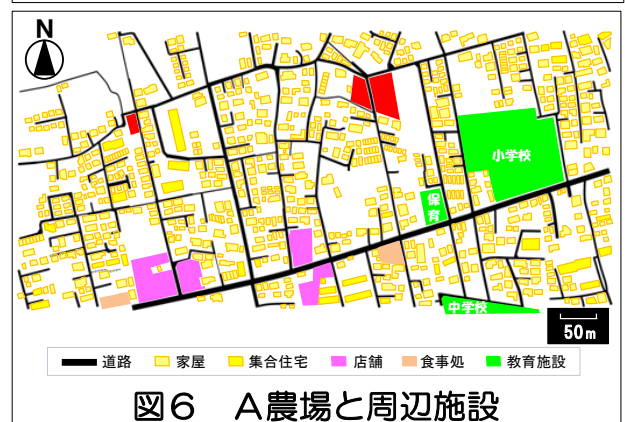
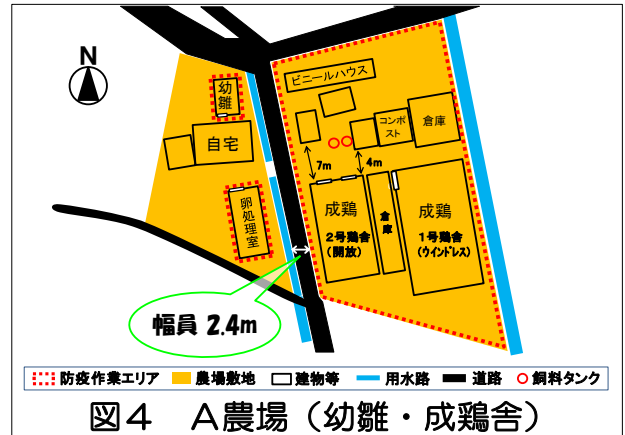
また、鶏舎は家屋、集合住宅等の人家に囲まれ、防疫作業を行う上で、周辺住民に対する配慮も必要と思われた。

2 B農場の概要と課題

B農場は、平飼い、初生導入の採卵養鶏であり、飼養羽数は、1,100羽、うち雛が、200羽である。小さな鶏舎13棟からなり、山間の急傾斜地に位置している。(図7)

山の中腹に位置するB農場への進入路は、つづら折りで、狭く、険しい未舗装路となっており、小型貨物車では、方向転換が難しく、スイッチバックで進んでいくことになる。

敷地内も斜度がきつく、フォークリフト等の機材が使えない。また、農場内に水道はない。



農場で防疫作業を困難とする課題等の整理と対応

1 課題の整理

A農場の問題点とB農場の問題点を併せ、課題を表1に整理した。

(1) 物理的な問題点と課題

物理的な問題点として、畜舎が点在し、農場敷地が狭く、道が狭い・険しい等が挙げられる。B農場では、急傾斜地、水道がない、といった問題点があり、これによる課題として、防疫作業エリアの確保、大型車両や機材の活用が出来ない、資材の確保があった。

問題点		課題
物理的 (A農場 B農場)	畜舎が点在 農場敷地が狭い 道が狭い・険しい 急傾斜地 水道がない	<ul style="list-style-type: none"> 防疫作業エリア確保 大型車両・機材の活用が出来ない 資材の確保
対人的 (A農場)	市街地(人家密集) 小学校や店舗	<ul style="list-style-type: none"> 衆目(風評懸念) 住民の理解 住環境への配慮

(2) 対人的な問題点と課題

A農場は市街地にあり、人家が密集し、学校や店舗があることから、衆目され易く、風評被害の発生が懸念される。そのため、住民の理解や住環境への配慮が必要といった課題があった。

2 対応策

整理した課題について、対応策を検討した。

(1) 防疫作業エリアの確保

農場敷地が狭い場合には、人や車の往来を制限して、道路を含めた範囲を防疫作業エリアとして設定する必要がある。こうすることで、作業導線や作業エリアが確保されるとともに、農場前の道路にトラックを横付けして処分鶏や汚染物品の積込み作業を行うなど、農場敷地を有効に利用することが出来るようになると考えられた。

また、飼料倉庫や空鶏舎の内部を整理することで、作業スペースとして確保することも必要と考えられた。

(2) 大型車両や機材の代替

両農場とも敷地や進入路が狭く、大型車両の乗入れが出来ないことや、B農場のように敷地が傾斜していることでフォークリフト等の機材が使用できないことに対しては、効率は落ちるものの、処分鶏や汚染物品を積替えるための一



時保管場所を設置し、農場では軽トラック等、小型の機材を投入し、併せて人力での積み込み作業を行う等の対応が必要と思われた。(図7)

(3) 資材の確保

B農場の様に水道がないことに対しては、消毒作業等で使用する水の量を把握し、給水手段を確保する必要がある。

(4) 住民の理解・住環境への配慮

市街地に立地する農場では、衆目され易いことから風評被害の懸念がある。

住民に誤解を招かないよう、正確な情報を分かり易く丁寧に説明し、防疫作業への理解を求めていくとともに、住環境へ配慮した防疫作業を進める必要がある。

具体的には、交通整理員の増員により、通学児童の安全の確保、夜間作業時の音や光漏れ軽減対策の検討、状況によっては、作業時間に応じた作業内容を検討する。

生産者は、防疫作業終了後も地域の中で生活する必要があり、周辺住民との軋轢が生じない対応が必要と思われた。

まとめ

今回、高病原性鳥インフルエンザの防疫対応について、市街地と山間地に位置する、2戸の規模の小さな農場について検討した。

物理的な問題点と对人的な問題点があり、物理的な問題点については、通常想定される使用機材とは異なった機材の投入と人海戦術による対応が必要であり、規模に応じた想定よりも予算と作業人員の確保が必要と思われた。

对人的な問題点については、風評被害を防ぐ上でも、住民の理解を得ること、住環境へ配慮した防疫作業を進めていく必要がある。防疫作業開始までの限られた時間内で周辺住民に対し、十分な情報の提供を行う等、きめ細かい対応が必要であり、防疫作業とは別に人員の確保が必要と思われる。

また、地域住民への対応ということでは、市町との連携も重要と思われた。